

一般社団法人

日本女性科学者の会 NEWS



The Society of Japanese Women Scientists

No.118 2016.3

I. 2016年新春によせて

一般社団法人 日本女性科学者の会 会長 功刀 由紀子

2015年度新春懇談会が、1月10日(日)仙台にて開催されました。天候にも恵まれ、参加者の方々は遠方より駆けつけてくださいました。その結果、本会を構成しております5ブロックすべてから参加を頂くことができ、本会の活動や情報発信を全国展開するために幸先の良い新年の懇談会となりました。

前半の講演会では、2名の講師の方々から、それぞれの分野におけるフロントランナーとしての研究をご講演頂きました。また、後半の懇談会では各ブロックからの報告もなされ、情報交換の場として有意義な懇談会となりました。企画運営に携わって頂きました北海道・東北ブロックの理事をはじめ、会員の皆様には改めて御礼申し上げます（詳細報告は2ページ参照）。

前号117号の発行後、本会主催の事業として隔年開催の例会（7ページ）、および一昨年から連続開催を致しております内閣府との共催事業（4ページ）を、前者は東京ブロック、後者は四国・中国・九州・沖縄ブロックの運営により成功裏に実施することができました。本ページを繰って頂きますと、上記新春懇談会も含めこれらの事業報告が紙面を埋めており

ます。興味深い内容満載ですので、ぜひ最後までご高覧をお願い致します。

加えて本号では、例会でユーモアあふれる楽しい基調講演をなされた赤松良子先生の講演内容を、臨場感とともに掲載を致しました。いつまでも若々しくパワフルな赤松良子先生の楽しいご講演を、会員の皆様にも追体験頂ければ幸いです。



さて、本会が一般社団法人として2014年4月に新たな一歩を踏み出して、はや2年を迎えようとしております。法人としての社会的な責任を全うすべく、以前の任意団体時とは異なる会の運営方法等が求められております。定款に則り、透明性の高い組織運営が必要とされています。現在10の委員会を設置し、全国5ブロックからの理事の皆様には、担当理事としていずれかの委員会に所属し活動頂いております（委員会の詳細と組織については、前号のNEWS117号をご参照ください）。全国の会員の皆様には、本会の定期事業であります会員総会、学術大会、例会等にご参加頂くとともに、本会に対する提言や活動のアイデア等お寄せ頂くことを期待致しております。

来る4月から始まります平成28年度は、隔年開催の学術大会開催年に当たります。現在開催要領は未決定ですが、多くの会員に参加頂けるような企画ができればと考えております。また、法人化後3回目となります会員総会は、5月22日(日)学士会館（東京）にて開催致します。例年通り、奨励賞、功労賞の贈呈式および奨励賞受賞講演会との同時開催ですので、こちらもぜひご参加の程、お願い申し上げます。

目次

I. 2016年新春によせて	1
II. 2016年新春懇談会	2
III. 国・地方連携会議ネットワークを活用した 男女共同参画推進事業報告	4
IV. 例会報告	7
V. 新春懇談会風景	12

2016年新春懇談会報告

北海道・東北ブロック長 平野浩子
本間美和子理事、梅津理恵理事

2016年新春懇談会が1月10日(日)北海道・東北ブロックの担当で、仙台のホテルレオパレス仙台で開催されました。昨年新春懇談会は学術大会との合同、一昨年は臨時総会との合同での開催で、単独での開催は3年ぶり、また昨年の九州開催に引き続きの地方開催でした。幸い当日は温かく、青空にも恵まれ、21名の参加でした。

今回の新春懇談会は、まず功刀会長からの開会の挨拶があり、前半は特別講演を2題、後半は懇親会で、その中で今年度のSJWSの活動を関係者に報告をして頂きました。

プログラム

司会：本間美和子理事

13：00 開催挨拶 功刀由紀子会長

【特別講演会】

13：05 座長：梅津理恵（東北大学金属材料研究所）
栗原和枝先生（東北大学WPI-AIMR、多元物質科学研究所 教授）

『表面力測定と材料科学への展開』

13：50 座長：本間美和子（福島県立医科大学）
宮城妙子先生（宮城県立がんセンター研究所 共同研究員）

『シアリダーゼ研究：がん診療への応用をめざして』

14：35 閉会挨拶 平野浩子北海道・東北ブロック長

14：40 20分休憩

15：00～懇親会（会場地下1階カンファレンスルーム隣）

特別講演はまず東北大学WPI-AIMR、多元物質科学研究所教授である栗原和枝先生から「表面測定と材料科学への展開」と題し、独自性の非常に高い表面測定法開発の経緯、またそれを用いて様々な界面の物性評価と物質理解が可能になったこと、そして測定対象が大幅に拡大したことによる今後の応用に向けたお話を聞かせて頂きました。

次に宮城県立がんセンター研究所長、東北薬科大学教授を歴任された宮城妙子先生からは「シアリダーゼ研究：がん診療への応用をめざして」と題してご講演頂きました。がん化により特定のシアリダーゼ酵素活性が増大することを発見され、酵素活性化の抑制とがん細胞縮小の相関を具体的に示されたご研究は、学会等でも高く評価されています。

お二方ともその道の第一人者であり、いろいろな意味でパイオニアとして、長い間重ねられてこられた膨大な研究内容を、解りやすくお示し下さいました。社会にも大いに貢献し、これからも期待が持てる研究内容で、我々にも希望と元気を与えて下さいました。議論も活発に行われ、非常に実りのある講演会であったと感銘をうけました。

その後、午後3時過ぎに部屋を移動し、大島範子監事の乾杯のご発声により懇親会が開催されました。懇親会のなかで以下の4つの項目について関係者からスピーチをいただきました。

1. 小川由起子理事、玉井幸恵理事より、2015年12月に開催された内閣府、SJWS共催事業について、多数の参加者を得て盛況であり、主催者側としても有意義な開催であったとの報告がありました。
2. 野呂知加子理事（学協会連絡会担当）より学協会連絡会における最近の活動、特にワーキンググループについてはSJWSとしての協力のあり方について今後議論する予定であることが報告されました。
3. 大倉多美子監事（前SJWS会長）より、2015年9月に都内で開催されたSJWS例会等について報告頂きました。

4. 荒谷美智・東北ブロック会員より、青森六ヶ所村における最近の活動状況についてお話し頂きました。

懇親会では宮城三陸地産の料理を頂きながらの和やかな時間を過ごし、会員間の親睦を深める良い機会となりました。地方開催にもかかわらず多くの方に足を運んで頂き、盛会のうちに幕を閉じることが出来ましたこと、厚く御礼申し上げます。

特別講演要旨：「表面力測定と材料科学への展開」



東北大学 WPI-AIMR, 多元物質科学研究所 栗原 和枝

学生時代から脂質二分子膜のような分子の自己組織体を対象として研究を進める過程で、分子間相互作用の解明は重要だと考え、相互作用を直接バネばかりを用いて測定する「表面力測定」を開始した。相互作用の変化により固-液界面の現象(電気二重層、高分子などの広がり、液体の構造化など)を見る強力な手段でもある。測定にかかる表面の大きさは約30 μm と大きいのに、その間の距離を図る分解能は0.1 nmと小さく、ナノとマクロな現象をつなぐユニークな測定である。

実際に現実の多様な系に適用しようと考えるといろいろな課題があった。距離の測定法から透明な基板に限定されていた試料の条件の拡大、平滑な試料の調製、測定した相互作用力の解釈などである。それ以来、これらの限界を取り除き、当測定を材料科学のツールとして確立したいと研究をしてきた。不透明試料を測定できるツインパス型表面力装置、微細な空間の液体の性質を図る共振ずり測定法など開発した独自測定手法、閉じ込め液体の性質の測定例と摩擦研究(トライボロジー)への応用など、例を示しながらこれまでの研究を紹介した。

特別講演要旨：「シアリダーゼ研究：がん診療への応用をめざして」



宮城県立がんセンター研究所共同研究員 宮城 妙子

大学卒業後の臨床研修の後、一年余、医師として中堅民間病院でがんの診療に携って居りました。しかし、がん治療の難題に直面し、新しい診断・治療法の開発を目指すことが先決との考えに至り、東北大抗酸菌病研究所(現、加齢研)の故立木蔚教授のもとで、がんの基礎研究を開始致しました。その後、約40年間、研究を継続することになりましたが、がん臨床に具体的に役立つ仕事は未だできておりません。現在もベンチャー企業等との共同研究により、遅々とした歩みながら望みを捨てずに研究開発を進めて居ります。

シアリダーゼとは、糖蛋白や糖脂質糖鎖の末端を占める酸性糖シアル酸を脱離する酵素ですが、世界に先駆けて、その構造と機能の解析を進め、ヒトには染色体部位や酵素学的性状の異なる4種が存在し、細胞分化、増殖、細胞死等の重要な細胞機能に深く関わっていること(Miyagi and Yamaguchi, *Glycobiology*, 2012, review)を見出しました。さらに、4種のうち、形質膜局在型シアリダーゼ(NEU3)が大腸癌、腎癌、前立腺癌、頭頸部癌等の多くの癌腫で異常に亢進し、がんの悪性度を助長していること(Miyagi et al. *Glycoconjugate J.* 2012, review)、がんで異常亢進するWntやEGFRのシグナリングをNEU3が活性化し、進展のみではなく、がん化能をも制御すること、また、NEU3発現抑制により、正常細胞には影響を与えないが、がん細胞死を導くことを明らかに致しました。以上の結果は、NEU3ががん治療の標的分子として優れており、その活性阻害剤、抗体やsiRNA等による発現抑制により、がんの創薬に繋げる可能性を強く示しております。一方、前立腺癌等の血清に、NEU3が高率で検出され、その診断的価値を示唆する結果も得て居ります。これらの成果のがん診療への具体的な応用を切に願いつつ、初心に立ち帰り、医師としてがん緩和医療への参画も始めて居ります。

男女共同参画推進事業報告

「親子で考える理系の夢への挑戦」

SJWS四国・中国・九州・沖縄ブロック長
長崎国際大学薬学部 小川 由起子

2015年12月20日(日)、長崎県のハウステンボスに隣接する長崎国際大学薬学部（佐世保市）で、一般社団法人日本女性科学者の会と、内閣府主催 国・地方連携会議ネットワークを活用した男女共同参画推進事業「親子で考える理系の夢への挑戦」との共催事業が開催された。本事業は、長崎国際大学の共催、長崎県、長崎県教育委員会、佐世保市、佐世保市教育委員会、佐世保市少年科学館、佐世保市薬剤師会、長崎大学、長崎短期大学、安田女子大学、水産大学校、西南女学院大学、九州歯科大学の後援、井手薬品株式会社、株式会社信衆堂をはじめ多くの団体・企業から協賛が得られ、多大なご支援により開催できた。年末の多忙期にかかわらず、自然科学に興味を持つ中学・高等学校生徒とその保護者、教諭と本事業に関心持つ市民（124名）、大学教員ファシリテーター（2名）、大学生と大学院生ファシリテーター（20名）、本会員（13名）と共に、魅力あふれる話題を提供した5名の科学者を講演者に迎え、総勢163名による、熱気あふれる、非常に充実した会が行えた。

当日は10時より、功刀由紀子 SJWS 会長の開会挨拶、九州文化学園理事長兼長崎国際大学学長 安部直樹氏による来賓挨拶に続き、日本社会事業大学理事長 潮谷義子氏（元熊本県知事および元長崎国際大学学長）の基調講演「生命の不思議を知る」に続き、第一部を開催した。基調講演では、ご自身の歩まれた足跡から職場での女性科学者の問題点、自他の命への大切さにおよぶ多岐の内容が語られた。その後、「理系での挑戦－夢を仕事に－」と題し、4名の科学者の講演が行われた。

山口敦子氏（長崎大学大学院水産・環境科学総合研究科教授）は「海洋のいきものについて教育・研究する仕事とは？」と題し、魚が大好きな幼少期の経験から始まり、長崎大学水産学部で当時初の女性教官としての就任への道のり、自身の研究であるサメやエイの生態を分かりやすく紹介され、中高生に水産学部の魅力が伝わり、さらに詳しい話を聞きたいという声も会場から上がった。

木村了氏（女性技術士の会理事長）は「女性科学者と資格」と題し、科学技術に携わる女性技術者に資格取得の意義を自身の経験から熱心に語った。

勝山雅子氏（株式会社資生堂ライフサイエンス研究センター食品開発グループ副主任研究員）は「きれいを応援する企業で～化粧品ができるまでの研究～」と題し、肌の常在菌から化粧品開発研究まで幅広い話題を提供し、思春期の中高生に関心が深いスキンケアの興味深い内容が盛り込まれていた。

大石昌代氏（ファイザー株式会社医薬開発部門クリニカル・リサーチ総括部、クリニカル・ファーマコロジー部）は「面白い！を追いかけて～ポジティブ挫折のススメ」と題し、薬が開発され患者が利用できるまでの話を通じ、挫折の中にも「面白い！」を見つけられること、目の前に全力投球して欲しいというメッセージに、今後、自分で進路を決めなくてはならない中高生は非常に勇気づけられた。

第2部では、学生ファシリテーターと参加者が9グループに分かれ、それぞれ「理系への挑戦～期待と支援～」と、「夢を仕事に～あなたが創る未来に向けて～」のテーマについて議論し、グループごとの考えをまとめた。

第3部では、グループを代表する中高生が5分間ずつの発表を行った。理系へ進学する本人の不安が共有され、保護者と学校の支援について大学受験での受験科目選択や、進学したい学科の内容の詳細を理解するため高大連携を強化することも有意義な提案として認識された。理系の進学にあたり学費に加えて生活費で不安のある学生は多く、奨学金制度の充実も課題であることが分かった。「あなたが創る未来に向けて」では、自分ができることを努力し、とにかくトライする、興味あるものに一步踏み出すなどのポジティブな意見が

多く、夢に向けて前向きな考えが参加者に共有された。これは主催者を喜ばせ、今後、本事業の参加者の中から女性科学者が誕生することに期待を持たせた。

閉会式では、本会長 功刀由紀子氏より、総括と次世代を担う参加者に未来へ向けての期待の応援が述べられた。内閣府より出席いただいた酒井香世子氏（内閣府男女共同参画局 総務課政策企画調査官）から、長崎国際大学への本事業開催の感謝と、閉会の挨拶が行われ、盛況のうち閉会した。本事業の内容は、当日19時からの「スポットインサセボ」（テレビ佐世保）でも放映され、地方メディアからも注目された。

開催に当たり、講師の先生方をはじめ多大なるご支援とご協力をいただいた関係諸機関、SJWSの皆様に心より感謝申し上げます。



プログラム

平成27年12月20日（日）10：00～16：00

司会進行：第1部、第3部 小川由起子（SJWS理事）

第2部 玉井幸恵（SJWS理事）

副島久実（SJWS四国・中国・九州・沖縄ブロック）

開会挨拶：功刀由紀子（SJWS会長）

来賓挨拶：安部直樹（学校法人九州文化学園理事長、長崎国際大学学長）

【第1部】

基調講演

潮谷義子（日本社会事業大学理事長、前熊本県知事）

講演「理系での挑戦－夢を仕事に－」

山口 敦子（長崎大学大学院水産・環境科学総合研究科教授）

木村 了（特定非営利活動法人 女性技術士の会理事長）

勝山 雅子（㈱資生堂ライフサイエンス研究センター食品開発グループ 副主任研究員）

大石 昌代（ファイザー（株）医薬開発部門クリニカル・リサーチクリニカル・ファーマコロジー部）



【第2部】

グループディスカッション

【第3部】

グループ発表と講評

総括：功刀由紀子（SJWS会長）

閉会挨拶：酒井香世子（内閣府男女共同参画局 総務課政策企画調査官）



グループディスカッションと発表

笑顔が生まれる場所。

 井手薬品株式会社

<http://www.ide-medicine.co.jp>

<https://www.facebook.com/ide.medicine>



©井手薬局 [栄町店 / 松浦店 / 塩浜店 / 京町店] ©トラスト薬局 [波佐見店 / 万徳店 / 城山店]

SJWS関東ブロック長

昭和女子大学生生活科学部 中山 榮子

2015年度のSJWS例会は2015年9月13日(日)に東京薬科大学千代田キャンパスにおいて開催され、関東ブロックが担当しました。今回は、企業でご活躍の女性お二人と元文部大臣の赤松良子先生をお招きいたしました。普段は大学人や研究者とのおつきあいがほとんどである本学会員にとって、視野の広がるお話を伺えたらとの企画でした。

プログラム

1. 日時：2015年9月13日（日）13：00～17：00
2. 会場：東京薬科大学千代田キャンパス
3. 例会次第（司会：中山榮子理事・関東ブロック長）
 - 13：00～13：10 開会挨拶：功刀由紀子会長
 - 13：10～ 話題提供
 - (1) 水間玲子様（株式会社ケイエスピー事業開発部事業開発課主任）
「女性活躍推進の流れにみる働き方の多様性」
 - (2) 原田奈美様（リンクスシステムコンサルティング合同会社代表）
「女性技術者の現状と今後の展望～IT業界で働くとは？～」
 - (3) 赤松良子先生（日本ユニセフ協会会長、WinWin代表、クオータ制を推進する会会長）
「クオータ制について」
 - 14：50～ 懇親会
 - 16：50～17：00 閉会挨拶：大島範子監事（第6代会長）

水間玲子様は、IT系からコンサルティング会社を経て現在の(株)ケイエスピーにてベンチャー企業の育成や支援を行っている方です。同時に働く女性向けの各種セミナーも企画しているお母様でもあります。当日は、働く女性の家庭との両立から女性の管理職の現状やなぜ増えないのか？女性の活躍推進が必要な理由や働く女性を支える社会の変化、そして、女性の活躍が多様化している現状をお話いただきました。起業は「規模や専門性次第では自分の裁量で働ける」ため女性向けとも考えること、その起業をさせる環境が変化してきていること、フリーランスという働きかたについてなど、大学では伺えないお話をしていただきました。女性の活躍に向けてはまだまだ日本は発展途上ですが、先進企業の取り組み例などもご紹介いただきました、なお、水間様にはSJWS学術誌(2016)にトピックスとしてご投稿いただいております。

原田奈美様は、金融機関営業職、ソフトウェア会社、システムエンジニア、ITコンサルタント、人材育成マネージャーを経て、現在は独立行政法人情報処理推進機構(IPA)人材育成調査研究担当であり、リンクスシステムコンサルティング合同会社の社長でもあります。とにかくご自分の能力のエビデンスとして多くの資格をお持ちで、それをもとに技術者としてステップアップしていかれた様子をお話いただきました。IT技術者の世界は自然科学者のそれとはかなり異なり、こちらもまた新鮮なお話でした。ご自身のキャリアを振り返って、同期の男性よりも3年分の遅れを取り戻し追い越すために必死で勉強されたとのこと、最初はなかなか資格が取れなかったのが、一定量の勉強ののち次々と合格するようになったとのことのお話は分野が違っても納得できるものでした。最後に女性ITエンジニアの魅力とやりがいについてお話いただきました。研究者とは異なる世界ですが、バイタリティーにあふれるお話でした。



最後に元文部大臣（細川、羽田両内閣）の赤松良子先生をお迎えいたしました。功刀会長や大倉前会長ともご親交があり、先生にはクオータ（quota：割り当て）制についてざっくばらんにお話いただきました。先生のお話の内容は以下の「クオータ制について」をご覧ください。

出席者21名（プラス赤松先生関係の方）のほとんどの方が懇親会まで参加され、大変盛り上がった例会となりました。大学が夏季休暇中であったこともあり、お若い方の参加が少なかったのは残念でした。

企画から実施まで多くの皆様にご協力いただきました。感謝申し上げます。



赤松良子先生講演「クオータ制について」



現在「クオータ制を推進する会」というのを設立し、私が会長となって、いろいろな女性団体に参画をしていただき、クオータ制を推進しようとしております。

今日は、クオータ制についてリケジョの皆さんにお話し

するんだと思ってまいりました。クオータとは割り当て、25%だろうが、50%だろうが30%だろうがいいんです。とにかく割り当てという意味。何の割り当てかということこれはジェンダーというのを前につけるとちゃんと意味がわかる、ジェンダークオータですね。クオータ制というのは要するに、男女の割合を何%にするかということを決めようという呼びかけなんです。

今の社会、日本は特にひどくて、世の中を動かしているのがほとんど男性で、女性は非常に少ない、これはよくないと思います。それが、男女の違いのせいで決められたと言っても、誰も納得しないのが今の世の中だと思うんです。

でも、昔はそうじゃなかった。昔と言ってもそんな100年も200年もじゃなくて、70年前と考えて

ください。70年前戦争が終わりましたね。それより前の時代というのは、クオータ制どころか、女性は参政権すらなかったんですから、選挙のときに投票するということができなかった。教育の面でも、その時代日本には、帝国大学が設置されておりましたが、女性の入学は認められていなかった。

でも、日本のその当時の政府が割と感心だったこともあります、明治時代に日本が近代化するその過程で教育、中でも初等教育というのを大事と思って、まず、日本全国津々浦々で少なくとも初等教育は100%受けさせましようと言った。この宣言は今考えたってよろしいと思います。明治二十七、八年に戦争があった。そのときに日本が勝ちまして、たくさん賠償金を清国からもらう。その賠償金、降って沸いたような棚からぼたもちみたいな金だから、何にだって使えるでしょう。それをそのときの政府は初等教育の充実のためにと言って、全国津々浦々に小学校を建てたのに使ったと、私が文部大臣のときに聞きました。それまで知らなかったのですが、とにかく、日清戦争の賠償金で小学校を全国津々浦々に建てたって、なかなかいい話だと思いました。

初等教育が全国に広まった、これは男女別学なんです。けど実際は多分、少なくとも初めのころは、女の子でも小学校の初めのうちぐらいは学校に行ったほうがいい、あとは男は学校行かなきゃだめだけれども、女はいいんじゃないと思っただおじさんはいっぱいいたろう。でも、やっぱり国の方針として、小学校だけはもう男だろうが女だろうが行けと言ったわけですね。

だから、日本はその点では非常に進みました。識字率という言葉ございますよね。字が読める、国民の中で字が読める割合、非というのがついて読めない割り合い、識字率、非識字率に関して言うと、日本の場合、識字率は100%近いんです。男女共通してみんな字は読める。日本では当たり前と思うけど、世界をみれば、字が読めない人々が多数存在する国がいっぱいある。そんな遠くないアジアに、あのパキスタンという国があるでしょう。あそこのマララちゃんという女の子の話をお読みになったことがあるでしょう。女の子だから学校なんか行かなくていいんだと思っているやつらがいて、彼女が学校へ行こうとしたら、「あいつは生意気だ、悪い」と鉄砲で撃った。それが当たって瀕死の重傷を負いました。でも、奇跡的に命を取りとめた。そして、そのあと治ったんでまた学校へ行く、これは危ないでしょう。それでもマララちゃんは、頑張って「私は学校へ行く」と言って行っている。

まあ、立派な心がけでしょう、私も感動しました。「えらい、えらい、行け」と思った。そうしたらノーベル賞をもらいました。確か、16歳でノーベル賞をもらったのは、史上初めての一番若いノーベル賞受賞者です。そういう話を聞くとちょっとうれいすよね。

クォータ制の話に戻ると、クォータ制というのは要するに女も男と同じように教育は受けるべきというところから始まって、政治の世界では、主として国会議員だとか、市会議員だとかそういう物事を決める場所にいる女性を何%にすべきかという割合のことを、ジェンダークォータ、略してクォータと言っているのです。

たとえば、フランスはパリテというすごいことをしちゃった。パリテというのは半分という意味です。だから50:50、クォータの理想的な割合というのは半分でしょう。フランスではパリテ、50:50。それから、国によって、40にしたり30にしたり、日本は、30年ぐらい前に2020年までにあらゆる分野で、女性リーダーの割合30%を目指そうと政府が言うようになった。前から202030という言葉が御存じの方もいらっしゃるでしょう。そのうちだんだん月日はたった。もう202030というのは、そんな先ではなくなってしまった。今、2015年ですよね。あと5年、でももはや、30%というのは、世界的に見ても高い目標値ではないんです。だってパリテの時代だから、もう50にしなくちゃいけない。だから、203050というのがこの頃でできた。202030ではなくて、203050というのが新しい目標として出てきて、日本も30じゃなくてもう50の時代なんだと、今や日本の政府も言いだした。

私がどうして「クォータ制を推進する会」なんていうものをつくったかと言えば、そういうふうな女性の少ない実態というのを変えなきゃいけない。変えるためには目標というものがあつたほうがいい。それでその割合を考えようじゃないの、そして、それを推進しようじゃないのというのがクォータ制を進める会、推進する会の目的でございます。

これは、いつごろから始まったかというのと、まず、1999年に「WINWIN」という会をスタートさせました。WINWINっていうのは勝つだから何に勝つと言ったら、選挙に勝つという意味でWINWINとっているんです。選挙にはいろいろあるけど、第一の目標としては国会です。国会には衆議院と参議院とある。日本は参議院のほうが女性の率が高い。だからと言って、もうちょっと頑張れば半分なんてとてもならない。現在は、15.7%です。衆議院のほうはもっと低くて、1割にもなってない。一番高かったときには、1割超したことがあるけれども、現在9.5%です。

そういうふうな少ない。これは非常に残念なことで、これを何とかもっと上げたい。その方法と

しては、いろいろあるかもしれないが、一番効果が目に見えて上がるのがクォータ制じゃないか。クォータ制というのも効果の強い弱いはいろいろある。一番強いのは、法律で何割と決めてしまう。フランスは憲法でパリテ、つまり50:50と決めた。半分にするためには、どうしたらなるかという、ペアの選挙というのを考えた。これはおもしろいことを考えるな、これは独創的だなと私は感心したんだけど、ペアの選挙というのは、例えば大倉さんが立候補するとしたら、大倉さん女性だから、男のペアを組む相手を探す。そうしたら選挙資格ができる。みんなペアで男と女が立候補するという、そういう選挙制度にしちゃったんです(注)。

そうしたら、候補者はペアの男対女1対1、女対男1対1でしょう。そうしたら、当選した場合だって、どのペアが当選するかは別として、必ず1対1なんだから、当然候補者が1対1で、当選するのも50:50になりますよね。それでパリテが実現した。フランスはまずはその50:50を実現する第一弾として、大統領が閣僚を50:50にしたんですよ。閣僚、日本は一体何%でしょう、30%もいません。それをフランスはとにかくパリテなんだから、閣僚をまず50:50にするという、オランダ大統領が50:50閣僚を実現した。そして今度はまた、ペアの選挙というのを実行し、閣僚のみならず議員も半々にした。そういう国があるというのを私たちは知識として持っている。

次に、他の女性の割合の多い国を見たら、大体においてクォータ制という制度を取り入れている。取り入れていなくて多い国というのは、ないことはない。だけど、取り入れている国は大体において高い。日本は低いくせに取り入れもしない状態、よくないじゃないですか。低いんだったら、高くすることを考えるべきなのに、今の政治家の先生たちの多くは全然考えもしない。

韓国をごらん下さい。遠い国ばかりじゃなくて、お隣を見ましょう。韓国はついこの間まで、女性の割合は日本よりも低かった。とても悪い状態だった。それで、クォータ制を取り入れたんで

すよ。そうしたら、あつと言う間に日本は抜かれちゃった。だから、クォータ制というのをやれば、女性の割合が上がるってことははっきりしているんです。ただ、どんな方法でクォータ制をやるかという、日本では憲法は無理でしょうね。普通の法律に書けるか、それも難しい。では各政党が自主的に、たとえば比例代表で女男女男・・・というリストを提示する。そうしたら、女男女男・・・という比例代表リストだったら、結果も半々になるでしょう。だから、比例代表のところだけでもそれをやれば女の数は必ず増えるのにそれもしない。ずっとこんなこと言っているだけではだめなんで推進する会というのをつくった。そうしたら、全国から今、50以上の団体が参加してくださった。だんだん増えています。一方、今の国会の議員さんたちも、それに気づいた方がかなりおいでになって、中川正春という民主党の大臣だった方がおられるんですが、その方が引っ張って火つけをなさってくれた。政権交代になったから、元大臣の影響も小さくなっちゃったけれども、けどそういう方が会長で、女性の活躍を進めようという先頭に立って頑張ってくださっている状態が、日本でも見られます。ちゃんとありますから、期待を寄せたいと思っています。

最後にクォータ制以外に女性の参画を進める方法はないものか、という疑問もおありになるかと思います。もちろん、多々ありますよ。例えば、女性の意識の政治に対する関心を高める、女性の意識を高めるといのは、世論の力を上げることですよね。それは非常にいいことなんですけど、それを口だけで言っていたんではだめなんで、何か行動しなければと考えると、赤松政経塾というのを立ち上げました。赤松政経塾では、政治の仕組みだとか、議員の仕事とかいろいろなことを勉強して行こうと思っています。

というのは、議員になるには、なれるような知識も経験もいろいろなものが必要なんです。ですから、すぐなろうとってなれるわけじゃない。いろいろな準備が必要。ちゃんと政治に対して関心があり、適切な意識があり、必要な経験がある

人を育てておかなかつたら「クオータ、クオータ」と言ったって、枠ばかりできたって、内側が埋まりません。だから、そのような人を育てましようというので、政経塾で勉強してもらって、議員にふさわしい人材を育てようというのが原点です。明治の初めに日本のそのころの政府が、一生懸命小学校を建てたのと、私が政経塾をつくっているのとは、まあ似たりよったりではないですが、とにかく必要なことは、人材を育てることだというふうに思います。それで、政経塾というのを去年(2014年)の秋からやっております。2015年の9月19日から第2期の政経塾が始まり、2016年6月に終わります。もし、ご関心がおありでございましたら、

ぜひ見においでください。場所は国際文化会館(六本木五丁目)でございます。夕方6時から第1部第2部と勉強して、8時くらいからみんなで食事をしながら懇談会・懇親会をやります。懇親会ってなかなかいいものです。いろいろな部門の違う、職業の違う人たちが仲よくなれますよね。リケジョの皆さん、大いにリケジョじゃない人とも仲よくして、懇親をしていただいたらいいなと思っております。

(注) フランス地方議会選挙のうち、県議会選挙でこの方式を取り入れ、2015年3月29日フランス全土98の県で一斉に実施された。



事務局からのお知らせ



「日本女性科学者の会の総会および第21回奨励賞・功労賞贈呈式」が2016年5月22日(日)午後1時に学士会館で開催されます。

詳細は後日お知らせしますが、まずは日程の調整をして頂くことで多くの会員の皆様に参加して下さいますようよろしくお願い申し上げます。

福岡の「地域医療」の一翼を担う

タカラ薬局
TAKARA

福岡都市圏とその近郊に70店舗展開中!!

福岡市博多区博多駅前3-25-21 博多駅前ビジネスセンター3階
TEL 092-436-2900 FAX 092-436-2901
HP <http://www.takarapharmacy.co.jp/>
お問合せ info@takarapharmacy.co.jp



カイセイ

株式会社回生薬局

漢方相談で健康のお手伝い 佐賀県で40年!

〒848-0027 佐賀県伊万里市立花町4005番地
代表取締役社長 平野智也
HP: <http://www.kaisei-drug.co.jp/>
E-Mail: khonbu@kaisei-drug.co.jp

安心と信頼『心かよう調剤薬局』
一地域のかかりつけ薬局を目指して—

(株)メイファーマシー

URL: <http://www.may-ph.co.jp>
〒890-0005

鹿児島県鹿児島市下伊敷1丁目11番10号
TEL: 099-216-5070 Fax: 099-216-5040

※全国の処方せん受けつけています。



株式会社ミズ

「あなたのそばで家族のように」

佐賀市水ヶ江1-1-11 0952-22-7974

調剤



溝上薬局

V. 2016 年新春懇談会風景



編集：大富 美智子・玉井 幸恵・山口 陽子・小杉 尚子・四谷 理沙

発行所：一般社団法人 日本女性科学者の会 ©

事務局：〒453-8777 名古屋市中村区平池町4丁目60-6 愛知大学名古屋一般教育研究室内

TEL：052-564-6151 FAX：052-564-6251 E-mail：sjws-office@sjws.info